



～これまでの活動～



ここには2012年度前期自治委員会総会から半年間、
学生自治会が行ってきた活動について載せています。

■ 要望書に関する活動 ■

①要望アンケートを実施しました

学生の切実な要望を実現するためには、学生一人一人が日頃から抱えている切実な要望を把握する必要があります。そこで、学生自治会は9月26日から11月22日にかけて、学費や講義・履修などの学生生活に関する要望アンケートを中百舌鳥キャンパスおよびりんくうキャンパスの学部生を対象に実施しました。

②要望書案・要望書資料を作成しました

学生自治会は要望アンケートの結果や、昨年12月から今年11月末までの間に意見箱に投函された意見をまとめ、要望書案を作成しました。また、要望内容を補足し、分かりやすくするため、要望に関する調査結果や参考資料などを掲載した要望書資料を作成しました。

■ 情報宣伝・情報収集に関する活動 ■

①学生生活に関わる情報の宣伝を行いました

学生自治会は、『NASCA』やウェブサイト等の情報宣伝手段を活用し、学生生活に関わる情報の宣伝を行ってきました。

②学生の意見や、大学に関する情報の収集を行いました

学生自治会は、意見箱やウェブサイトの掲示板、メールなどの情報収集手段を活用し、学生の意見を収集してきました。また、この活動によって集められた学生の意見は、必要に応じて大学をはじめとした関係各所に伝えてきました。

また、学生の置かれている状況に応じた自治会活動を行うには、大学の動きや社会情勢などを把握する必要があります。そこで、学生センターや大阪府立大学教職員組合との話し合い、インターネットによる情報収集を行ってきました。

得られた情報の内、学生に有意義な情報は、『NASCA』などを通じて学生に発信してきました。

■ 大学運営に関する活動 ■

①学域・学類制の導入に関して学生に不都合がないか確認しました

今年から開始した学域・学類制への移行に伴い、学生に不具合が生じていないか情報収集を行いました。その結果判明した不具合に関して学生自治会は、大学の担当者各位と話し合いました。

②第2期中期目標・第2期中期計画・平成24年度計画に対する活動を行いました

第2期中期計画をはじめとした、大学の運営計画には、教員の削減や大学独自の奨学金の創設など、学生に対して影響の大きい項目が存在します。そこで学生自治会は、これらの運営計画に関する活動を行いました。

③「大阪府市統合」の動きに関して注視し、大学へ学生の意見を届けました

大阪府と大阪市の間で「府大と市大の一法人化」の議論が進められています。しかし、このような大規模な改革案が学生に対して十分な説明がなされず、学内での議論を十分に行わないまま議論が進められ、学生にとっての不利益が生じるようなことがないように、学生自治会は、インターネットなどを用いて情報収集を行いました。

■ 大型PA再購入実行委員会 ■

①第4期再購入に向けて、定例会を開き、話し合いを行いました

大型PA再購入実行委員会は、大型音響機器(大型PA)の第4期再購入が円滑に行われるよう定例会を開きました。また、その際、体育会と文化部連合から財政悪化のため負担金額の削減の訴えをうけ、各団体の負担金額の見直しを行いました。



■ りんくうキャンパス局 ■

①りんくうキャンパスにおける情報収集・情報宣伝を行いました

学生自治会は、よりりんくうキャンパスに根ざした活動を行なうため、意見箱などを通して大学や学生自治会に対する学生の意見を収集してきました。また、より多くのりんくうキャンパスの学生が、大学や学生自治会に関して興味・関心を持ち、意見を発していくことのできるように、『NASCA』やポスターを通じて情報宣伝を行ってきました。

②りんくうキャンパスでの縦割りコンパに対して支援を行いました

例年、りんくうキャンパスでは、獣医学科・学類での回生や学生と教授の垣根を越えたつながりを作るために、縦割りコンパを開催しています。学生自治会は、縦割りコンパで作られる交友関係は、慣れないキャンパスで活動する一回生の獣医学類生にとって、支えとなると考え、縦割りコンパに対して支援を行いました。

■ ステージ管理委員会 ■

①ステージをより適切に運用するため、話し合いなどを行ってきました

ステージ管理委員会はステージの適切な管理・運用および、第2期再購入を円滑に行うことを目的に、ステージの現状確認や再購入に関する話し合いなどを行ってきました。

また、体育会と文化部連合から財政悪化のためステージ積立金への援助金額の削減の訴えをうけ、各団体の負担金の見直しを行いました。その結果、文化部連合および体育会の援助金額を削減し、学生自治会の負担金を増額しました。

②ステージの天板の補修などを行いました

ステージ2台について一部の天板が老朽化し、危険であったため、白鷺祭実行委員会・友好祭実行委員会の協力を得て、天板の張替作業を行い、ステージ3台全てに急な雨などから天板を保護するための防腐剤を塗布しました。

■ 立て看板管理局 ■

①立て看板の管理・運用を行いました

立て看板管理局は、立て看板やステージバックが安全に利用されるよう、強風時に立て看板を倒すなど、立て看板の日頃の管理・運用を行ってきました。

②立て看板管理局の構成団体を対象に講習会を行いました

立て看板を安全に運用するには、立て看板管理局の構成団体が立て看板の取り扱い方を熟知している必要があります。そこで、学生自治会に対しては11月10日に、白鷺祭実行委員会に対しては9月11日に立て看板の取り扱い方についての講習会を行いました。

③白鷺祭本祭典中での管理体制の強化を行いました

立て看板の危険性を知らない一般の人が多く訪れ、また催し物の宣伝手段として多くの立て看板が立てられる第64回白鷺祭本祭典では、立て看板管理局は、立て看板の周囲に立ち入り禁止テープを設置し、フリーマーケット出店者などの立て看板の近くで活動している人に注意を呼び掛け、白鷺祭本祭典中に立て看板周辺の継続的な見回りを行うなどの対策を行いました。

■ 学生団体連絡会議 ■

①第39回七夕祭実行委員会に協力しました

学生自治会は、七夕祭は首都大戦およびクラブ活動を盛り上げ、学生生活の充実を図ることができると考え、活動場所として学生自治会室を提供する、物品の貸し出しを行う、実行委員として役員が参加するなどの協力を行いました。

②学生センターとの話し合いを行いました

学団連は、正確な大学の情報を把握し、大学との相互理解を深めるために月に一度学生センターとの話し合いを行ってきました。

